

事業名：保育園運営経費

保育課 保育係

政策	03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実							
施策	03 子育て環境の充実							
基本事業	02 未就学期児童への支援							
開始年度	—	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市立保育所入所児童

手段（事務事業の内容、やり方）

保育所入所申込書により保育課へ入所の申請をする。（保育時間：午前7時15分～午後6時15分）

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

保護者の就労等による児童を保育することにより子育て支援を行なう。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市立保育所（公設民営を除く）入所児童数	人	4,057	4,065	3,949	3,960
対象指標2						
活動指標1	市立保育所数（公設民営を除く）	箇所	5	5	5	4
活動指標2						
成果指標1	市立保育所入所率（公設民営を除く）	%	90.2	90.3	87.8	100
成果指標2						
事業費(A)		千円	93,700	99,254	109,500	102,642
正職員人件費(B)		千円	457,482	448,896	426,434	427,034
総事業費(A+B)		千円	551,182	548,150	535,934	529,676

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	保護者の就労等により保育が必要な児童を保育する。	報酬 62,602千円、賃金 13,212千円、報償費 25千円、旅費 116千円、需用費 28,224千円、役務費 1,013千円、使用料及び賃借料 768千円、備品購入費 976千円、負担金・補助及び交付金 137千円、償還金、利子及び割引料 2,427千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
今後の保育ニーズの多様化、地域子育て支援の拡充などに対応するため市立保育園の民営化と公民保育園役割分担を内容とする「江別市立保育園のあり方計画」の報告書が平成20年3月28日市に報告されたところである。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由根拠 児童福祉法に基づき設置している保育所の適切な運営に係る事業であり、義務的な事務事業である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input checked="" type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由根拠 子育て環境の充実を図るため未就学期児童への支援として設置している保育所の安心して安全な子育て体制の整備に係る事業であり、基礎的な事務事業である。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由根拠 経費の見直しを図りながらも保育サービスの維持・向上を図るべく創意工夫して取り組んでおり、多様な保育ニーズに対し概ね応えることができおり成果がでている。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由根拠 「江別市保育園の整備と運営に関する計画」に基づき体制を整備するとともに待機児童の解消に向けた取組を推進していくことにより成果向上の可能性がある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由根拠 経費の見直しを図りながらも保育サービスの維持・向上を図るべく創意工夫して取り組んでおり、コスト削減の方向性は見出せない。